

広報

ただみ

4

2014 月号

No. 527

平成26年4月10日

4月1日から町の

組織が変わりました…… 2～3

平成26年度 只見町予算…… 4～5

青少年健全育成主催大会及び各種表彰式…6～9

只見ユネスコパーク推進協議会準備会 他

…… 10～11

町の話題…… 12～13

組織改編

4月1日から 町の行政組織が 変わりました

平成15年10月の組織改編から10年が経過し、この間に社会情勢や地方自治体を取り巻く環境は急速に変化しました。このような変化に対応し、行政事務を迅速かつ正確に行うため、4月1日から町の組織が変わりました。

今回は、組織変更後の各課の名称や主な業務内容についてお知らせします。

「5課10班」→「7課14係」体制へ

①班から係へ

横断的な事務処理ができるように「5課10班」の「班制」で組織を運営してきましたが、4月からは「班」を廃止し、「7課14係」体制となり、よりきめ細やかで質の高い行政サービスの提供に努めます。

②副課長を設置

課長補佐職の「副課長」を新たに設置し、副課長は課内の事務調整を図りより効率的な事務処理や意思決定の迅速化により住民サービスの向上を目指します。

③地区センターは振興センターへ

3地区の「地区センター」は4月から「振興センター」に名称が変わりました。振興センターは、生涯学習事業などを推進し地域の学びの場、地域づくりの拠点としての業務を行います。また、4月からは明和振興センターで町県民税等を納付する事ができます。



町の組織機構図

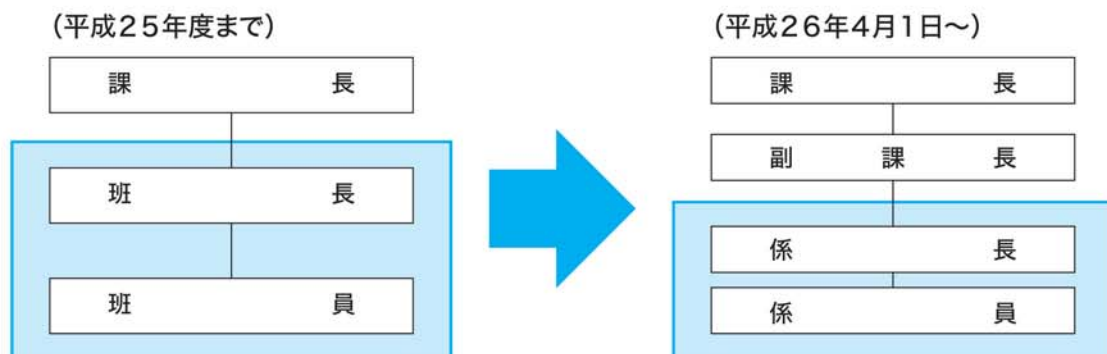
(平成25年度まで)

(平成26年4月1日～)

課・班名		課・係名	主な業務
総務企画課	企画班	総合政策課	地域振興係 総合計画、ユネスコエコパーク、交通運輸対策
	総務班	総合政策課	財政係 財政、予算、入札、契約
町民生活課	税務班	総務課	総務係 秘書、庁舎建設、広報広聴、選挙
	町民班	総務課	職員係 給与、統計、庁舎管理、情報システム管理
保健福祉課	保健班	町民生活課	税務係 町税徴収、固定資産税、土地・家屋台帳
	福祉班	町民生活課	町民係 総合案内、戸籍、諸証明の交付、消防・防災
産業振興課	農林班	保健福祉課	保健係 国民健康保険、後期高齢者医療、健康づくり推進
	交流推進班	保健福祉課	福祉係 高齢者福祉、介護保険、保育所、少子・高齢化対策
環境整備課	地域整備班	農林振興課	農政係 農水産業振興、農業施設の災害復旧、土地改良
	生活環境班	農林振興課	林政係 林業振興、林業施設の災害復旧、有害鳥獣駆除
会計室		観光商工課	観光係 観光振興、観光施設の管理・運営、国際・国内交流
只見地区センター		観光商工課	商工係 商工振興、物産振興、企業誘致、雇用対策
朝日地区センター		環境整備課	地域整備係 道路建設及び維持管理、雪対策、町営住宅
明和地区センター		環境整備課	生活環境係 簡易水道、下水道、ごみ、生活環境全般
教育委員会	学校教育班	会計室	現金の出納、収入支出事務
	生涯学習班	只見振興センター	地域づくり、生涯学習、集落組織の支援、 諸証明の交付(只見振興センターを除く)
議会事務局		朝日振興センター	
農業委員会事務局		明和振興センター	
		教育委員会	学校教育係 学校経営、教育委員会庶務、高校振興対策
		教育委員会	生涯学習係 社会教育、芸術文化、文化財保護、スポーツ推進
		議会事務局	議会庶務、議事、調査、監査委員事務
		農業委員会事務局	農業委員会庶務

※組織改編により課名、係名が変わったところが青文字になっています。

▼改編前後の組織



復興「加速」、地域課題への「挑戦」

◆平成二十六年年度只見町予算

平成二十六年年度予算は、新潟・福島豪雨災害からの復興の「加速」、地域課題への「挑戦」、ユネスコエコパークを「根幹」とする、3つの基本方針のもとに、町勢進展に向けた事業を展開していきます。

一般会計の予算規模は五十億一、〇〇〇万円となり、前年度対比十二億五、六〇〇万円の減二十%の減となっています。また、十二の特別会計の合計額は二十六億二、九六〇万円となっており、一般会計と合わせた平成二十六年年度予算総額は七十六億三、九六〇万円です。

◆一般会計 歳入

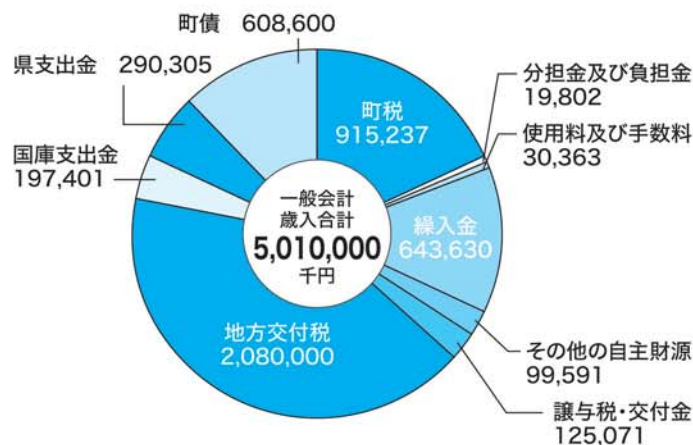
歳入のトップは、「依存財源」(国や県から入るお金)に含まれる地方交付税で、前年度比五、〇〇〇万円の増額を見込んでおり、歳入全体の四一、五%を占めています。また、「自主財源」(町が独自に確保できるお金)では、町税が歳入全体の二八、三%で、前年度に比べて二、三万円の増額となっています。

◆一般会計 歳出

歳出は、総務費の占める割合が最も高く十七、二%となっています。これは、今年度登録予定のユネスコエコパーク関連事業、及び各振興センター(旧地区センター)の地域づくり交付金事業、JR只見線の復旧復興関連事業等の実施によるものです。次に、民生費に占める割合が十五、三%となっています。主な事業は昨年からの継続事業である長浜地区の小規模介護施設整備事業です。次に、農林水産業費の占める割合が十二、三%となっています。中山間地域等直接支払事業、6次化産業企業家応援事業等を実施します。

続いて、教育費、衛生費、公債費、土木費、商工費、消防費の順になっています。教育費では学校給食活用支援事業を実施します。衛生費は南会津地方環境衛生組合負担金の減により全体で減となっています。公債費は臨時財政対策債の償還開始による増となっています。土木費では町道長浜久保田中川原4号線改良事業を実施し、商工費では、プレミアム商品券発行事業や浅草岳登山道整備事業を実施します。なお、災害復旧事業は、平成二十五年度繰越事業として引き続き実施していきます。

1,000万円



■町税の内訳

町民税	1億5,331万9千円
固定資産税	7億1,929万1千円
軽自動車税	1,053万9千円
町たばこ税	2,799万7千円
入湯税	409万1千円

町民一人あたりにすると(3月1日現在人口).....	4,763人
■一般会計支出額(使われるお金の額).....	1,051,858円
■町税負担額(納めていただくお金の額).....	192,156円

■歳入

(単位:千円)

項目	26年度	構成比	25年度	増減率
町税	915,237	18.3%	913,106	0.2%
地方譲与税	61,000	1.2%	69,000	-11.6%
利子割交付金	750	0.0%	700	7.1%
配当割交付金	390	0.0%	200	95.0%
株式等譲渡所得割交付金	1	0.0%	1	0.0%
地方消費税交付金	53,000	1.1%	40,000	32.5%
自動車取得税交付金	8,300	0.2%	11,000	-24.5%
地方特例交付金	630	0.0%	500	26.0%
地方交付税	2,080,000	41.5%	2,030,000	2.5%
交通安全対策特別交付金	1,000	0.0%	1,000	0.0%
分担金及び負担金	19,802	0.4%	21,996	-10.0%
使用料及び手数料	30,363	0.6%	30,614	-0.8%
国庫支出金	197,401	3.9%	187,648	5.2%
県支出金	290,305	5.8%	1,704,590	-83.0%
財産収入	22,638	0.5%	21,656	4.5%
寄付金	3,002	0.1%	3,002	0.0%
緑入金	643,630	12.8%	528,699	21.7%
繰越金	1	0.0%	1	0.0%
諸収入	73,950	1.5%	55,387	33.5%
町債	608,600	12.1%	646,900	-5.9%
歳入合計	5,010,000	100.0%	6,266,000	-20.0%

■歳出

(単位:千円)

項目	26年度	構成比	25年度	増減率
議会費	77,427	1.5%	80,537	-3.9%
総務費	860,388	17.2%	1,248,320	-31.1%
民生費	768,864	15.3%	1,030,884	-25.4%
衛生費	473,949	9.5%	517,672	-8.4%
労働費	13	0.0%	13	0.0%
農林水産業費	565,253	11.3%	538,099	5.0%
商工費	390,782	7.8%	336,360	16.2%
土木費	416,961	8.3%	423,790	-1.6%
消防費	321,756	6.4%	257,684	24.9%
教育費	480,192	9.6%	419,231	14.5%
災害復旧費	149,319	3.0%	989,195	-84.9%
公債費	420,017	8.4%	382,176	9.9%
予備費	85,079	1.7%	42,039	102.4%
歳出合計	5,010,000	100.0%	6,266,000	-20.0%

平成26年度の主な事業

新規…○、拡充…◎

■住民と行政が協働するまちづくり

- 集落・地区センターなど住民交流を主体とした地域づくり
 - 590万円 ◎集落運営支援交付金事業
 - 600万円 ◎自然首都只見地域づくり交付金(団体枠)
 - 900万円 ◎自然首都只見地域づくり交付金(集落枠)
- 効率的な行財政運営
 - 6,534万円 ○只見総合開発センター解体事業
- 総合的な土地利用・交通体系の確立
 - 6,211万円 ○福島県JR只見線復旧復興基金拠出金
 - 1,000万円 ○JR只見線全線再開通事業

■自然に感謝するまちづくり

- 自然保護意識の醸成
 - 2,546万円 ユネスコエコパーク推進事業
- 雪と共存するまちづくり
 - 1,400万円 高齢者等除雪支援事業
 - 2,000万円 大雪対策事業補助金
- 水環境の保全と上下水道の整備
 - 568万円 浄化槽設置整備事業補助金(6基)
 - 4,591万円 只見統合簡易水道整備事業
- 道路網の整備
 - 3,050万円 ◎町道長浜久保田中川原4号線改良事業

■保健・医療・福祉が一体となった元気なまちづくり

- 健康でいきいきと暮らせるまちづくり
 - 1,794万円 放射性物質対策事業
- 安心して子どもを産み育てられるまちづくり
 - 450万円 ○子宝祝い金事業
 - 1,520万円 18歳以下医療費無料化事業
- 高齢者・障がい者福祉の充実と元気づくりの推進
 - 506万円 ○福祉商品券給付事業
 - 7,347万円 小規模介護施設整備事業(特別養護老人ホーム)
- 安心できる暮らしづくり
 - 432万円 防災行政無線更新事業

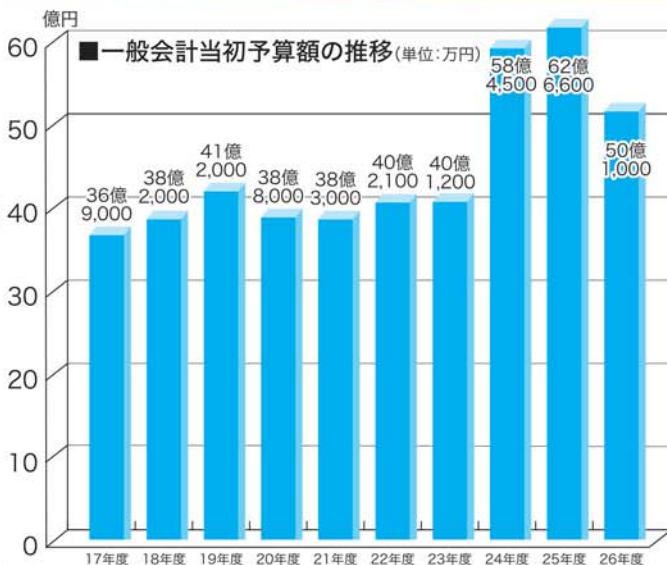
■教育、文化を大切にすまちづくり

- 誇りが持てる農業の振興
 - 2,085万円 中山間地域等直接支払事業
 - 1,600万円 農商工風評被害対策事業
- 豊かな森林を活かした林業の振興
 - 847万円 流域育成林整備事業
 - 7,234万円 林道施設過年災害復旧事業
- 活力ある商工業の振興
 - 1,060万円 ○プレミアム商品券発行事業
- 特色を活かした魅力ある観光の振興
 - 2,414万円 ◎河井記念館改修事業
 - 2,020万円 ◎浅草岳登山道整備事業
- 産業間連携と産業おこしの推進
 - 300万円 産業振興対策事業補助金
 - 800万円 6次化産業企業家応援事業

■新たな産業と循環型社会を構築するまちづくり

- 家庭教育力の向上
 - 274万円 ◎子ども読書活動推進事業
- 広い視野を持ち地域を理解する町づくり
 - 265万円 地域人材育成事業
- 地域文化の振興(人の技・物・食の伝承)
 - 300万円 ◎八十里越古道調査事業
- 次世代を担う子どもたちの教育の充実
 - 600万円 ◎学校給食活用支援事業
 - 400万円 ◎進路応援給付金事業
- 生涯スポーツ・レクリエーションの充実
 - 774万円 子育てひろば事業

豪雨災害からの



一般会計 予算総額 50億



■特別会計予算

(単位:千円)

会計区分	26年度	25年度	増減率
国民健康保険事業特別会計	504,000	553,000	-8.9%
国民健康保険施設特別会計	438,000	450,000	-2.7%
後期高齢者医療特別会計	134,000	125,000	7.2%
介護保険事業特別会計	624,000	597,000	4.5%
介護老人保健施設特別会計	252,000	243,000	3.7%
訪問看護ステーション特別会計	17,000	23,000	-26.1%
地域包括支援センター特別会計	10,000	12,000	-16.7%
簡易水道特別会計	199,000	297,000	-33.0%
観光施設事業特別会計	52,000	66,000	-21.2%
交流施設特別会計	76,000	43,000	76.7%
集落排水事業特別会計	312,000	322,000	-3.1%
朝日財産区特別会計	11,600	14,100	-17.7%
合計	2,629,600	2,745,100	-4.2%



「私が
持っている
バトン」

朝日小学校6年
渡部 美依さん



「挑戦する心」

只見小学校6年
目黒 怜華さん

「時間を見つけて
資格を取ろう」

只見中学校1年
川合 未来さん



「その時
自分にできること」

明和小学校6年
高橋 はるかさん



「『働く』
ということ」

只見中学校2年
目黒 眞子さん

—私の思いを
届けたい—

第28回
只見町青少年健全育成主張大会

「捕鯨問題を
考える」

只見高等学校1年
須佐 萌さん



「あの日を
忘れない」

只見中学校3年
齋藤 咲希さん



「Another day,
another
lesson」

(1日1日が、新たな学びです)

教育委員会
キャサリン・ソリスさん

「地球温暖化に
対する取組み」

只見高等学校2年
小勝 直人さん





▲青少年健全育成主張大会発表者と標語入賞者

2月23日に季の郷湯ら里で、只見町青少年健全育成町民会議と教育委員会の主催により第28回只見町青少年健全育成主張大会と青少年健全育成標語入賞者表彰式を行いました。

主張大会には、小学生3名、中学生3名、高校生2名、一般1名の計9名の参加者が学校での経験や普段考えている事、自分がこれからやろうとしている事など様々な意見や想いを発表されました。発表後には、主張大会の発表者と健全育成標語の入賞者への表彰式を行いました。健全育成標語各部門の優秀賞は下記のとおりです。その他の入賞作品は各戸に配布しました生涯学習カレンダーに掲載されており、入賞した標語はどれも素晴らしい作品なのでぜひカレンダーをご覧頂ければと思います。

また同日、平成25年度芸術文化賞・スポーツ優秀選手賞、町民文芸コンクールの表彰式も行いました。

表彰者は次のページのとおりです。

第28回青少年健全育成標語 各部門 優秀賞

小学生の部

「あいさつと 笑顔でもてなす 只見町」
只見小学校6年 坂内 夏海 さん

中学生の部

「犯罪は 決して許さぬ 地域の目」
只見中学校2年 飯塚 健太郎 さん

高校生の部

「寒いけど 除雪手伝う 地域の輪」
只見高等学校2年 五十嵐 真澄 さん

一般の部

「メールより 会って伝える『ありがとう』」
大倉 齋藤 由美子 さん

この他の入賞作品は平成26年度生涯学習カレンダーに掲載されておりますのでご覧下さい。



▲会場には約100名の町民が詰めかけ健全育成主張大会参加者の発表を熱心に聞いておられました。



▲入賞作品などは作品集となり各地区振興センターにありますのでご覧下さい。

町民文芸コンクール入賞者

<p>短歌 小学校上学年の部 特選</p>  <p>目黒 京介くん (朝日小5年)</p>	<p>短歌 小学校下学年の部 特選</p>  <p>齋藤 椿さん (只見小1年)</p>	<p>作文 中学生の部 特選</p>  <p>伊藤 舜さん (只見中3年)</p>	<p>作文 小学校下学年の部 特選</p>  <p>目黒 琳太郎くん (明和小1年)</p>
<p>俳句 小学校下学年の部 特選</p>  <p>山中 美紅さん (朝日小2年)</p>	<p>短歌 一般の部 特選</p>  <p>新國 洋子さん (只見)</p>	<p>短歌 高校生の部 特選</p>  <p>鈴木 雄太さん (只見高3年)</p>	<p>短歌 中学生の部 特選</p>  <p>齋藤 咲希さん (只見中3年)</p>
<p>俳句 一般の部 特選</p>  <p>菅家 吉次さん (黒谷)</p>	<p>俳句 高校生の部 特選</p>  <p>関谷 有香里さん (只見高3年)</p>	<p>俳句 中学生の部 特選</p>  <p>五十嵐 夏希さん (只見中2年)</p>	<p>俳句 小学校上学年の部 特選</p>  <p>新国 拓くん (只見小6年)</p>

- 【作文部門】**
- 〈小学校下学年の部〉
 - ▽入選 松永佳音(只見小1年) 藁谷花(朝日小1年)▽佳作 五十嵐零生(只見小1年) 渡部有希人(只見小1年)
 - 〈小学校上学年の部〉
 - ▽入選 鈴木伶菜(只見小6年) 美馬由理(只見小6年)▽佳作 目黒拓海(只見小5年) 坂内夏海(只見小6年)
 - 目黒佳祐(朝日小6年)
 - 〈中学生の部〉
 - ▽入選 石橋沙佳(只見中3年)▽佳作 星鈴果(只見中1年) 菅家ともみ(只見中3年)
 - 〈詩部門〉
 - 〈小学校下学年の部〉
 - ▽入選 新國蒼空(只見小1年) 鈴木来菜(只見小3年) 印南蒼羽(明和小2年)▽佳作 渡部有希人(只見小1年) 酒井大輔(朝日小3年)
 - 〈小学校上学年の部〉
 - ▽佳作 五十嵐巧翔(只見小4年)
 - 〈中学生の部〉
 - ▽佳作 角田妃菜子(只見中2年)
 - 〈一般の部〉
 - ▽入選 目黒富子(黒谷) 新國洋子(只見) 齋藤由美子(大倉)
 - 〈俳句部門〉
 - 〈小学校下学年の部〉
 - ▽入選 鈴木舞花(只見小5年)▽佳作 鈴木美羽(只見小5年) 服部杏菜
 - 〈小学校上学年の部〉
 - 斗(明和小3年)
 - ▽入選 松永佳音(只見小1年)▽佳作 大竹優真(明和小3年) 山内友(明和小3年)
 - 〈中学校の部〉
 - ▽入選 新國かすみ(只見中1年) 菊地萌花(只見中3年)▽佳作 目黒琴乃(只見中1年) 加藤愛惟(只見中2年) 齋藤咲希(只見中3年)
 - 〈高校生の部〉
 - ▽入選 新國優(只見高1年) 飯塚奈央(只見高2年)▽佳作 吉田栞(只見高1年) 小椋茉悠(只見高3年) 馬場信治(只見高3年)
 - 〈一般の部〉
 - ▽入選 三瓶タカキ(黒谷) 三瓶淑子(大倉)▽佳作 新國洋子(只見) 目黒永子(只見) 菅家玄三男(只見)
 - 〈小学生の部〉
 - ▽入選 渡部優花(只見中3年)▽佳作 吉津遥(只見中1年) 渡部瑠唯(只見中3年)
 - 〈高校生の部〉
 - ▽入選 菅家みなみ(只見高3年)
 - ▽佳作 橋和弘(只見高3年)
 - 〈一般の部〉
 - ▽入選 新國由紀子(只見)▽佳作 吉津久仁子(黒谷) 吉津佑(只見)



▲文芸コンクール入賞者



▲芸術文化賞・スポーツ優秀選手賞受賞者

芸術文化賞・スポーツ優秀選手賞受賞者

【芸術文化賞受賞者】

馬場遊茶(朝日小5年)

第46回福島県児童作文コンクール

県特選

【スポーツ優秀選手賞受賞者】

鈴木来菜(只見小3年)

第29回だいくら杯GS大会

小学女子1部大回転 第2位 他

高橋はるか・山内夏耶・菊地みずき・山内理子・若林空良・角田統哉・梁取結花・飯塚みゆき・五十嵐若菜・若林悠・角田紗菜・三瓶楓・山本愛佳・角田愛莉(明和スポーツ少年団 バレーボール)

第22回福島県小学生バレーボール新人大会会津大会

第1位 他

渡部賢太郎(只見中1年)

第29回だいくら杯GS大会

小学男子2部大回転 第1位 他

馬場那央也(只見中3年)

第56回福島県中学校体育大会

クロスカントリ男子フリ

第3位

目黒豊・目黒裕大・鈴木道也・新國陸・渡部賢太郎・鈴木遥大・山内遥矢・山内勇輝・鈴木蓮・飯塚健太郎・五十嵐夏希・八久保洋介・加藤秀脩・梁取水咲・目黒史也・山内光・目黒悠・吉津遥・五十嵐健斗(只見中学校軟式野球部)

第21回福島県中学校新人野球大会会津大会 軟式野球第1位

目黒百華・山内花・渡部瑠唯(只見中学校女子クロカント)

第56回福島県中学校体育大会

クロスカントリ女子リレ

第3位

山内結(只見高1年)

第33回全会津秋季陸上競技大会

女子500mW 第1位

飯塚奈央(只見高2年)

第33回全会津秋季陸上競技大会

女子800M 1500M 第1位 他

小沼拓矢(只見高2年)

第33回全会津秋季陸上競技大会

男子ハンマー投げ 第1位 他

鈴木達也(南会津高3年)

第59回福島県高等学校体育大会

スキー競技 男子大回転・回転 第2位

目黒英樹(只見スキーチーム)

第29回だいくら杯GS大会

壮年男子1部大回転 第2位 他

岩佐俊祐(只見スキーチーム)

第29回だいくら杯GS大会

一般の部大回転 第1位 他

シヨンスキー大会

第1位 他

推進協議会 準備会を開催

3月5日、只見町役場

催したものです。

において只見ユネスコエコパーク推進協議会の準備会を開催しました。これは、本年6月に只見ユネスコエコパークが登録される予定ですが、登録が決定すると同時にユネスコエコパーク全般の管理と事業を調整する推進協議会（仮称）を立ち上げる必要があります。登録後のスムーズな立ち上げと円滑な運営を図るため今回準備会を開



▲協議会には町内外から20団体以上の方々に参加して頂き、多くの関係機関で協力して取り組んでいきます。

目黒町長はあいさつで「ユネスコエコパーク決定後は自然環境・生物多様性の保護・保全を図りつつ、地域資源を持続可能な形で活用し、社会経済的な発展を目指す事になります。成功させる為には町民参加が必要不可欠です。そのためこの協議会が非常に重要な場になると考えますので皆様のご協力をお願いします」と述べました。

準備会では、これまでの取組みについての説明や、推進協議会会則案の提案とそれに対する意見交換などを行いました。

ダイヤモンドプラン事業第4期生 閉講式

3月6日、只見地区センタ

かなかその機会が無かった。この講座に参加し多くの事を学ぶことができ、さらに只見町の素晴らしさを知り只見町が好きになった。これからはガイドなどを行い、多くのの人に只見の良さを知ってもらえるように取り組んでいきたい」など発表されました。

「ユネスコエコパーク決定後は自然環境・生物多様性の保護・保全を図りつつ、地域資源を持続可能な形で活用し、社会経済的な発展を目指す事になります。成功させる為には町民参加が必要不可欠です。そのためこの協議会が非常に重要な場になると考えますので皆様のご協力をお願いします」と述べました。



▲修了証を持ち記念撮影

発表者の多くが、この講座で学んだことを活かし、また今後伝統文化を学んでいきたいという意見を発表されていました。ぜひ受講生の皆さんにはこの分野のスペシャリストになつて欲しいと思います。

受講生は講座を終えて、「今まで只見の伝統文化について勉強したいと思っていたがな



▶この2年間を振り返り、それぞれが想いを発表しました

記録誌を全戸配布

町では、平成23年7月豪雨

災害を記録し、後世に伝えると共に、今後の防災対策等に活用して頂くため「平成23年7月只見町豪雨災害の記録誌」を作成し全戸に配布させて頂きました。

また、町内の方々から聞き取りをさせて頂きまとめた「只見町 川と人の物語」も併せて配布させて頂いておりますので、各世帯でご確認頂き配布漏れ等ございましたら町民生活課までご連絡をお願いします。



▲全戸へ配布させて頂いた記録誌等

JR只見線早期復旧のために
只見線復旧基金に10万円を寄附



▲「只見線復旧復興基金」へ今回寄附された豊島区立千川中学校59年卒業生(右)と同校57年卒業生の皆さん

JR只見線早期復旧のためにと只見町出身で元中学校教員の目黒信さんは教え子と共に「只見線復旧復興基金」に10万円を寄附されました。目黒さんは現在、只見町と埼玉県川口市での2地域居住生活を行い、只見町のガイドやダイヤモンドプラン事業に参加されるなど只見町をPRする活動に取り組んでおられます。

教員として最初に赴任された東京都豊島区立千川中学校の57、59年卒業生の同窓会に出席された際、只見線の現状を説明すると、教え子の皆さんは快く募金に応じられ目黒さんの善意も加え今回の寄付となりました。

只見線の早期復旧を願う
竹下景子さん来庁



▲来町記念にヒロロで作ったバッグをプレゼントしました

3月19日、女優の竹下景子さんが只見町役場を訪れました。竹下さんは前日金山町で開催されたシンポジウムにスペシャルゲストで参加され、ご本人の希望により翌日只見町に来られました。

目黒町長との会話の中で「JR只見線が早く元通りになることを願います」と話され、この日の午後には只見線に乗る企画に参加されるなど只見線のPR活動を行われました。

民生児童委員が
手作り遊具をプレゼント



▲みんなで大事に使って下さい

2月28日、朝日保育所に朝日地区の民生児童委員が訪れバスマットと牛乳パックを材料に手作りしたままごとなどに使える「ついたて」をプレゼントしました。

これは、毎年民生委員の方が子供たちの為にと遊具などを手作りし3地区の保育所にプレゼントを行っているもので、子供たちはプレゼントを貰うととても嬉しそうでお返しに歌のプレゼントをしました。

町内小・中学校
優秀賞など受賞



▲表彰状を持つ各校の先生方

今年度の教職員研究物展において算数の研究や郷土愛を育む研究などで只見小が優秀賞、朝日小が特別優秀賞、明和小が奨励賞を受賞されました。

また、只見中は日頃の食育への取り組みが評価され福島県内の中学校では唯一食育推進実践校表彰優秀賞を受賞されました。



▲卒業証書を授与される卒業生

中 それぞれが新たな一歩へ 学校卒業式

只見中学校の卒業式は3月13日に行われました。式では藤田信一校長が38名の卒業生一人一人に卒業証書を手渡し、来賓の方からはこれから新たな一歩を踏み出す卒業生へ祝辞が述べられました。

卒業生を代表して加藤正靖君が「この3年間は夢のように過ぎ、寂しいが卒業できることに喜びと期待を寄せています。先生や家族、地域の皆さんに温かく見守って頂き今日の日を迎えられました。いつかは恩返しをしたいのでそれまでまた温かく見守ってください」と答辞を述べました。

小 学校卒業式

町立小学校の卒業式は、3月20日に各学校で行われました。

今年の卒業児童は只見小学校17名、朝日小学校12名、明和小学校15名の計44名で6年間の学校生活を終え、4月からはまた新たな気持ちで中学校での生活を始めます。



▲別れの歌をうたう卒業生(明和小学校)



▲保育証書を授与後、「保育所まで毎日送ってくれてありがとう」「小学校に行ったら勉強を頑張ります」などお父さんやお母さんに感謝の言葉や抱負を言いました



▲元気な返事をして保育証書を授与(朝日保育所修了式)

保 育所修了式

保育所の修了式は3月28日に各保育所で行われました。

只見保育所9名、朝日保育所11名、明和保育所11名の計31名が3月で保育を修了し、4月から小学1年生になります。

ブナセンター講座 「雪食地形と植生」



3月8日(土)に、東京学芸大学名誉教授で長年、地形や地質、気象、植生など様々な観点から山の景観をひも解く研究をしておられる小泉武栄先生を講師にお招きし、ブナセンター講座を開催しました。講座には、前日から降り続いていた大雪にもかかわらず64名の方が参加され、只見町の自然を特徴づける雪食地形の成り立ちについて、様々な視点から解説していただきました。

まず、世界的に見ると日本は雪が多く、風が強い国で、この気象によって生み出された多雪環境が植物の生育に影響を与え、本来は森林になるはずの山地に裸地や草原、低木林をつくりだします。また、^{そこ}底雪崩に含まれる鋭くとがった岩屑は、岩盤を削り取り、筋状に縦じまが入った山肌、いわゆる雪食地形をつくり出します。雪食地形は、日本の特色ある気候が生み出した景観なのです。

続いて、普通はブナ帯の上には亜高山帯の針葉樹林が広がりますが、只見町の山地の様に、針葉樹林が欠けて高山帯に似た草原や低木林が広がる「^{ぎょう}偽高山帯」についてお話があり、このことについて研究者たちは様々な仮説を提案され今も議論をしているが、まだ要因がわかっていないという事でした。

「日頃、目にしている景色をあたりまえと思わず、なぜそうなのかを考えてみてほしい」と小泉先生は最後に締めくくられました。様々な視点を変えて見ることにより、只見町の何気ない風景もその価値が見えてくるはずです。



自然観察会「冬のブナ林を歩く！」

3月9日(日)は前日まで続いていた吹雪が嘘のように止み、快晴に恵まれ平成25年度最後の自然観察会「冬のブナ林を歩く！」を開催する事が出来ました。前日のブナセンター講座で講師を務めた小泉武栄先生にも同行いただき、28名が参加されました。

はじめに伊南川の右岸から南部に広がる雪食地形の山並みを観察し、栖戸の観察の森で鈴木館長からこのブナ林の成り立ちについて、小泉先生から他の地域との比較についてお話を頂きました。その後参加者は思い思いの方法で冬のブナ林を堪能され、昨日樹木に積もった雪が時折塊となり降ってきましたが、新雪の上に足跡を残したり、寝転がったり、木立の隙間から青空を見上げたりと、楽しい観察会となりました。



朝日診療所が新体制になりました

4月から朝日診療所の医師体制が変わりましたので皆さんにご紹介します。

〈歯科医師紹介〉



齋藤 さゆり

○出身大学 日本大学
○専門 一般歯科

〈医師紹介〉



榎田 啓十

○出身大学 東海大学
○専門 小児科医を
目指しています



若山 隆

○出身大学 金沢大学
○専門 家庭医



菅家 智史

○出身大学 福島県立医科大学
○専門 家庭医

今月の運動

今月の運動は足の裏の筋肉をほぐす運動です。

この運動は、散歩やウォーキング、仕事等で疲れた筋肉をやわらかくし、腰痛や膝痛の予防にもなります。また、足をつりやすい方にもおすすめです。

- ①イスに浅く座り、片足を伸ばします。
- ②足の付け根部分に手を添えます。背中を伸ばしたまま、上体を腰からゆっくりと前に倒します。(このとき、つま先を自分のほうへ引き寄せるようにしましょう。)
- ③股の後ろ、膝の後ろ、ふくらはぎの後ろが伸びたところで少し止めます。



反動をつけずにゆっくりと、片側 5 回程度を目安に行なってみましょう。



▲ 只見方式で整理する町民

町史

とっておきの話

237

町民が生んだ只見の宝「民具」⑦

只見の民具から 世界の民具へ

二〇一三年は「民具」という言葉を生み出した渋沢敬三の没後五〇年にあたり、さまざまな催しが行われました。そもそも民具をはじめ、民芸・民話・民家・民謡・民俗芸能など庶民の生活文化に対する関心は、近代化に対する伝統的文化を再評価する運動として大正末から昭和の初めにかけて現われ、その集積が民俗学として柳田國男によって方向づけられました。言い換えれば、そこには先祖が営々と培ってきた伝統文化や生活の知恵の結晶である事物を簡単に捨て去ってよいのかとの反省が認められます。この背景には、現在を生きる我々はその取捨選択、改良を加え、子孫にいかにかに伝承していくのかを問う、過去↓現在↓未来に対する連続性への確固たる信念がありました。

民具は、庶民が生活の必要から製作し、使用してきた日常卑近な道具と狭義には考えられてきました。しかし、製作や使用に庶民の意思が反映されていけば、購入品や工業製品も、さらには荷車や家などの大物や不動産のものも常民の物質文化であると広く考えられるようになりました。その一方、民具は「二つの子」、それぞれの「土地」と父祖はじめ家ごとに使われてきた先祖伝来の「血」がしみ込んだ二つとして同じものがない物といえます。

只見町の民具は、国指定の重要有形民俗文化財として知られているだけではありません。おじいちゃん、おばあちゃんが民具を通してかつての生活を孫子に語り残すことを合言葉に自ら集め、写真を撮り、記録カードに記載するという整理・保存・活用方法が只見方式として民具研究者の間で広く知られています。実際に作り、使った本人が記録したのですから学術資料としても一級です。

自然と人々の交渉の結晶ともいえる只見町の民具の持つ現在の意味と、未来に伝える意義をどう考えたらよいのでしょうか。現在、所蔵されている民具の多くは高度経済成長期に不用になったものです。その背後には、農業の機械化、いろいろの消滅に象徴される生活の大きな変化がありました。今日、少子高齢化を迎えた中で、先祖が残してくれた宝物とも言える民具を活かす方策を私なりに一点あげてみます。



▲ 中国民俗学会ホームページで紹介された只見の民具

一つは、高度経済成長から現在までの生産・生活に関する耕運機や電気釜など諸用

神奈川大学教授

佐野 賢治

具の収集、記録化を行い、収蔵されている民具との比較の資料とし、時間軸における連続・非連続の面を考える参考にします。さらに現在の暮らしよりも正確に記録できたらと思います。韓国では、これから百年後に残すために、各地方で一軒の家の生活用具を冷蔵庫や財布の巾着、下着類まで一切合切を記録する事業を国立の民俗博物館が行っています。調査対象となる家の理解と十か月にわたる調査員の現地調査の賜物で、その成果はインターネットで公開されています。

もう一点は、空間軸として只見町の民具を国際的に紹介することです。半年近く雪に閉ざされる只見町もインターネット・エコミュニアムで世界につながります。パソコンは世界につながるいろいろ端です。また、パソコンを扱うことで、じいちゃん、おばあちゃんと孫との交流の場にもなります。只見町と似たヨーロッパアルプスの山村の民具と比較することも夢ではありません。実際、中国民俗学会のホームページには只見町の民具整理の方式が詳しく掲載され、民具をテーマにする大学院生も現れてきています。

現在、只見町の民具を収蔵展示する施設の開設が具体化してきています。只見町には、ブナセンター、河井継之助記念館、会津只見考古館をはじめとするミュージアムがすでにあり、ユネスコエコパークの登録も目前です。自然と人々が共生した理想的なエコミュニアムの姿が目に見え、その目標達成に向けて少しでもお手伝いができたらと思うところです。

町民文芸



只見短歌会

二月詠草

大塚栄一

指導

人寄りて見上げる高き栗の枝に山繭の繭一つ下がりぬ

小倉キミ子

入れやりし湯タンポに足の温みしか人工透析の夫は眠りぬ

古川 英子

整備終へ水張られゆく田の面には舞ふが如くに初雪が降る

目黒 富子

常降らぬ各方面の大雪は交通麻痺の大混乱伝ふ

渡部ゆき子

入院の母を見舞へば様々な人ありと身の幸せを言ふ

新国由紀子

折紙を折りつつ思ふ遠き日の葉つつみし紙の折り鶴

関谷登美子

雪水をしとど吸ひしかどんど焼きのご神塔の燃えず気をもむ

五十嵐夏美

頑張りの利かなくなれど痛む腰庇ひて朝の雪道を踏む

馬場 八智

一枚の紙を手にして折り上ぐるさまさまの鶴に喜びはあり

渡部ヨリ子

若き日に友と登りし浅草岳臥す病棟の窓辺に遠し

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

三月例会

目黒十一

指導

料峭や焚く紙屑の黒くまふ
里山に迷ふておるよ雪女郎

礼

邦夫

降りつづく春は名のみの寒さかな
雪解けてぬつと顔だすふきのとう

信

順子

見上げれば体を射抜く春日かな
何事もなきがごとくに雪消えし

修一

リウコ

細雪眺めて飲むや夕餉どき
氷柱噛むふつと友垣懐かしむ

藤彦

都

忘れ雪ゆうゆうクラブの椅子並ぶ
ダンベルの握りをしかと隙間風

邦男

洋子

拝観を閉ざす山門春一番
道行くや柂目模様は雪の層

恒夫

一穂

春の川片足休め鷺の立つ
横道を塞ぐ雪嵩ブルの音

又壺歩

春分や門雪払う竹箒
カリカリと雪固まりて二月尽

春の川片足休め鷺の立つ
横道を塞ぐ雪嵩ブルの音

(出詠順)

第3回NHK 「福島の桜フォトコンテスト」

NHK福島放送局では、福島民報社・福島民友新聞社・福島県写真連盟とともに、「福島の桜」を復興のシンボルとしてとらえ、その美しさを広く紹介することを目的とした第3回NHK「福島の桜フォトコンテスト」を実施します。

●主催

NHK福島放送局 福島民報社
福島民友新聞社 福島県写真連盟

●共催

福島県

●テーマ

「春を彩る福島の桜」福島県内の
桜のある風景をとらえたもの

●応募点数

一人3点まで。応募資格は問いません。

●賞

「最優秀賞」、「優秀賞」、「入選」あわせて約50点
原則として1人1賞とします。

●応募作品の規格や注意事項

NHK福島放送局のホームページ (<http://nhk.jp/fukushima>)
をご覧ください。

●応募方法

募集要項の応募票を応募作品の裏面に貼って、NHK福島放送局までお送りください。募集要項はNHK福島放送局・郡山支局・いわき支局などで配布しています。郵送で募集要項をご希望の方は返信用切手を貼った封筒を同封の上、下記までお申し込みください。NHK福島放送局のホームページ (<http://nhk.jp/fukushima>)からもダウンロードできます。

●締め切り

平成26年5月23日(金)必着

●応募先・問い合わせ先

NHK福島放送局
〒960-8588 福島市早稲町1-2
NHK福島放送局「福島の桜フォトコンテスト」係
電話 **024-526-4660**
(平日 午前9時30分～午後6時)
ホームページ <http://nhk.jp/fukushima>



お知らせ

Information

電話番号

総合政策課 地域振興係	財政係	☎82-5220
総務課		
総務係		☎82-5210
職員係		☎82-5050
町民生活課		
税務係		☎82-5110
町民係		☎82-5100
保健福祉課		
保健係		☎84-7005
福祉係		☎84-7010
農林振興課		
農政係	林政係	☎82-5230
観光商工課		
観光係	商工係	☎82-5240
環境整備課		
地域整備係		☎82-5270
生活環境係		☎82-5280
会計室		☎82-5120
議会事務局		☎82-5300
農業委員会		☎82-5230
教育委員会		☎82-5320
学校給食センター		☎84-7180
只見保育所		☎82-2219
朝日保育所		☎84-2038
明和保育所		☎86-2249
朝日診療所 (歯科)		☎84-2221
訪問看護ステーション		☎84-2612
		☎84-2130
こぶし苑		☎84-2101
只見振興センター		☎82-2141
朝日振興センター		☎84-2111
明和振興センター		☎86-2111

税 今月の納期

4月25日までに

納めましょう

●固定資産税(1期)

●農集排使用料(4月分)

町職員の新規採用・退職

●退職職員(3月31日付)

- ▽星野 弘尊 (朝日診療所)
- ▽吉野 悦子 (朝日診療所)
- ▽山内 清示 (会計室)
- ▽山内 むつ (保健福祉課)
- ▽栃内 亜耶佳 (只見保育所)

●新規採用職員(4月1日付)

- ▽朝日診療所医師(兼) 榎田 啓十
- 介護老人保健施設施設長
- ▽観光工商課 観光係 三瓶 真人
- ▽教育委員会 生涯学習係 渡部 賢史
- ▽総合政策課 地域振興係 新国 万寿美
- ▽町民生活課 町民係 齋藤 充
- ▽朝日保育所 平野 麻衣子
- ▽只見保育所 渡部 由美
- ▽明和保育所 山内 裕子
- ▽朝日診療所 星 智子
- 福島県人事交流(4月1日付)
- ▽観光工商課 観光係 古賀 薫
- 社会福祉協議会より派遣(4月1日付)
- ▽明和振興センター 舟木 努

町長の手帳

町長スケジュール (3月分)

- 1日 只見高等学校卒業式
- 3日 議案検討庁議
- 5日 雪まつりミニ雪像コンテスト審査会、雪まつり実行委員会
- 6日 人材育成ダイヤモンドプラン閉講式、一般質問検討庁議
- 7日 南会津病院地域医療協議会(南会津町)
- 9日 南会津・奥会津合同観光現地視察・意見交換会
- 10日 雪まつりミニ雪像コンテスト表彰式、会津ただみ振興公社取締役会
- 11日 「3.11ふくしま復興の誓い2014in南会津」(南会津町)
- 12日 只見町議会3月会議開会(～20日)
- 13日 只見中学校卒業式
- 14日 診療所中曾根医師離任式
- 15日 奥会津シンポジウム(柳津町)
- 17日 東京都観光業協会現地視察・意見交換会
- 20日 町内小学校卒業式
- 23日 南会津地区時局講演会
- 26日 診療所星野医師離任式、臨時庁議、東北農政局との意見交換会(会津若松)
- 27日 只見町土地改良区理事会・総会、南会津会評議員会・理事会
- 30日 只見婦人会定期総会、前佐藤消防副団長叙勲祝賀会
- 31日 町退職職員辞令交付・離任式、南会津会退職辞令交付式

「役場組織の機構改革」

3月の卒業式を終え、子供たちも新たな巣立ちのときです。中学、高校の卒業生たちは、東日本大震災や豪雨災害の年に入学され学業ばかりでなく様々な経験をしました。人間は多感な思春期に社会的に大きな出来事に遭遇するとその後の人生の価値観や生き方に影響を与えるといます。もしそうであれば、今回の経験が子供たちにやさしさとたくましさ、思いやりの心をもたせ社会を見つめ行動できる力が蓄えられたことを願っています。

町もいち早く災害復旧し、未来に向けた町づくりに取り組んでおります。JR只見線や林道災害の復旧には、引き続きなお一層の努力を継続しながら、従来から町が抱えている重点課題、「過疎対策」「産業振興」「地域づくり」に待ったなしで取り組み、早期の復旧・復興を目指していきます。

ユネスコエコパークも6月には登録認定の予定ですが、これからが正念場です。町の重点課題などを着実に推進していく体制を強化するため、役場組織の機構改革を行いました。

過疎対策には横断的に取り組み、就農支援、就労対策、住宅確保や高齢者福祉の向上に努めます。また、農林業は国の展開を見据えての施策を実施し、観光工商、都市交流の推進も図ります。振興センターは公民館機能を持たせ「地域づくり」の拠点としていきますので、今後とも町民の皆さまのご理解とご協力をお願いします。

只見町長 目黒 吉久

町民の消息

(3月1日~3月31日届出分)敬称略

■お誕生おめでとうございます

五十嵐 稀衣 (女/友人・里沙) 福井

■おくやみ申し上げます

田村 梅雄	98歳	塩 沢
櫻井ヒロノ	93歳	蒲 生
佐藤 三郎	93歳	二軒在家
佐藤久良子	69歳	入 叶 津
酒井モト工	91歳	只 見

人のうごき

平成26年3月1日現在

人口 4,636(ー 9)
 男 2,254(± 0)
 女 2,382(ー 9)
 世帯数 1,809(ー 1)
 高齢化率 42.5%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 3 転出 8 出生 1 死亡 13

▽取材で学校の卒業式に伺わせて頂きました。卒業式は自分が最後に参加したのがもう10年以上も前の事。かなりの時間が経つ訳ですが、当時とは違い別れの歌は「仰げば尊し」や「蛍の光」ではなく、合唱コンクールのような素晴らしい歌で、答辞も在校生へ学校の伝統を引き継いで欲しいという想いや地域の方々への感謝の想いなどが述べられ素晴らしい卒業式の内容に驚かされました。今も私も自分がこの卒業式に参加したら上手く出来ないと思います。▽広報誌を発行して1年。色々と勉強をさせて頂きました。また1年間頑張りたいと思います。

(吉津)

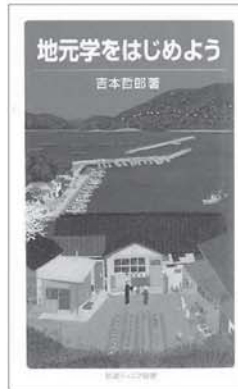
あとがき

振興センター職員
湯田 誉史

朝日振興センター
図書室 ☎84-2059

おすすめ新着図書

★地元学をはじめよう



吉本 哲郎/著
(岩波ジュニア新書)

いきいきした地域をつくるために何が必要なのだろう? 地域のもつ人と自然の力、文化や産業の力に気づき、引き出していくことだ。それを実行するための手法・地元学は、いま全国各地で取り生まれ、若い人たちも活発に動いている。

調べ方から活かし方まで、自ら行動して地域のことを深く知るのに役立つ1冊。

★お芋がいっぱい



正路 怜子/著
國本 りか/イラスト
(大和出版)

昭和13年、因島・重井へやってきたフーチャン先生は子どもたちに「私はお芋が大好き。でもどこに行けば売っているの?」と尋ねます。次の日のあさ、フーチャン先生が戸を開けると家の前はお芋がいっぱい!

現在もつづく、先生と生徒たちとの交流が、かわいい絵本になりました。

現在もつづく、先生と生徒たちとの交流が、かわいい絵本になりました。

★図書室の本はみんなの本です。返却が遅れている本がないか、書棚の確認をお願いします。新しい図書や有用な書籍を購入しておりますので、ぜひご利用ください。

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう

1、互いに助け合い親切をつくり楽しい町をつくりましょう

1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう

1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう

1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

町民憲章

クマタカ (学名: *Nisaetus nipalensis orientalis*)

[タカ科クマタカ属]



クマタカは、標高300m程度の低山帯から標高2000mを超える亜高山帯の森林に棲み、一年中同じ地域で暮らす留鳥^{リウチウ}です。名前のクマ(熊)は大きく強いという意味であり、タカ科の中では大型であることが和名の由来です。全長が雄は約75cm、雌が約80cm、翼開長は約160cmから170cmあり、雌は雄より一回り程度大きいです。木の枝の上などから地上を見張り、確実に仕留められるタイミングや条件が揃った時に初めて狩りを始めます。

狙う獲物はノウサギ等の中形哺乳類、ヘビ類、ヒヨドリ、ヤマドリ等の中形以上の鳥類が多く、その捕食する種の広さから豊かな森林生態系の指標種とされています。

只見町では、それらの捕食される対象である動物の生活圏内に人も住んでいるため、エサを探すクマタカが里山を飛んでいる姿が度々目撃されています。

繁殖は1年あるいは隔年に1回行われ、通常1回につき1卵を産みますが極稀に2卵産むこともあります。抱卵は主にメスが行い、オスは狩りを担当します。つがいはどちらかが死亡しない限り、一夫一妻が維持され続けます。

〈企画展示〉

旧田子倉集落の生活と文化
【ふるさと館田子倉コレクション】
4月14日(月)まで開催中

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

〈自然観察会〉

- ・ 残雪のブナ林を歩く 5月4日(日) ※要予約
- ・ 春植物を愛でる! 5月5日(月) ※要予約

詳しい内容については、決まり次第HPにてご連絡いたします HP:<http://tadami-buna.jp/>

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

今月の表紙

今月の表紙は「3.11 ふくしま復興の誓い 2014 in 南会津」のキャンドルナイト。写真の3つのキャンドルケースは、只見民芸品保存会が作成したつる細工の作品です。この作品は今回の祈念事業の監修を務めるキャンドルアーティストのキャンドルジュンさんから依頼され作成。納品の際に作品を見たキャンドルジュンさんはその素晴らしさに感激されていました。震災の犠牲者の追悼と福島復興への願いを込めたキャンドルとケースは会場を温かく包みました。



▲只見民芸保存会の作品を受けとるキャンドルジュンさん(中央)